

スタートアップ支援を手掛ける 「創業特区・福岡の現状」各自

福岡のスタートアップ施設の草分け的な存在である株式会社アイ・ビー・ビーは今年、発足15周年を迎えた。この間、数多くの起業家やベンチャー企業を育成してきたibb fukuoka project事業の発足時から陣頭指揮を取る廣田稔氏が福岡におけるスタートアップの現状や自らの姿勢、今後の展望を語る。

国家戦略特区に選ばれた福岡市におけるスタートアップ状況をどのようにみていますか？

2000年以降のスタートアップでは今日、第三の波がやって来ているとみています。

最初の波はITバブルの勃興でベンチャーやIPOが目立った時期です。その後、ITバブルが弾けた後にライブドアなどが登場し、ミニバブルが起きた時期に第二の波が訪れました。リーマンショックでミニバブルが弾けた後、いま押し寄せているのが第三の波です。

今回は過去2回と違って、官民で協力しながら一緒に盛り上げようとする機運があります。以前は「官が笛吹けど、民は踊らず」や「民が熱心にやっても官は我関せず」という状況もありました。しかし、福岡市の創業特区は国家戦略特区に選ばれており、高島市長が自らアクティブに動かれるなど大変意欲的です。

日本の他都市をみた場合、東京を別格とすれば、福岡ほどスタートアップ支援が盛り上がりつつある都市はありません。福岡の官民がともに一生懸命に頑張っており、バランス良く盛り上がりつつあります。

御社におけるスタートアップ支援の取り組みや特色として、どのようなものがありますか？

「世界ブランド企業をフクオカから」をスローガンに2000年、ibb fukuoka projectを立ち上げて今年で15周年になります。この間、インキュベーション施設「ibb fukuoka」に100社以上が入居し、これら関わった企業のうち6社がIPOを実現しました。この15年間を振り返ってみると、スタートアップ環境やIPO市場の良い時も悪い時もありましたが、私どもは「変わらぬ姿勢」で取り組んできました。その姿勢を具現化したのが、リーマンショックで最悪だった2010年に策定した「20年ビジョン」です。

「数多くのアントレプレナー（起業家）とIPO企業を輩出するこ

とで、九州・福岡を商機あふれるBusiness Incubation City」とビジョンに掲げ、「20年でIPO企業20社」を目標にして、支援プログラムの開発・実施に取り組みしました。現在、インキュベーションオフィスやワーキングスペースの運営というハード面の支援に加えて、起業家支援やIPO支援などソフト面の支援も実践しています。

具体的には企業の成長ステージを大きく三つに分けて、IPOに向けた「ibb社長塾」、スクール型プログラム「ibb起業家支援セミナー」など「ibbなでしこ塾」などのプログラムメニューを段階的に提供して支援しています。これらの支援プログラムの開発・実施は、ビジョンに共感いただいた経営者や専門家など人的ネットワークがあつてのことであり、長年取

り組んできた財産だと考えます。

今後、スタートアップ分野における展開や構想としては、どのようなものをお持ちですか？

私自身は今後も変わらぬ姿勢でビジョンの実現に取り組んでいきます。今後の展開としては、私どもの本業が不動産業である点を生かして、従来なかった新たな独自サポート事業を現在、構想中です。

10月末から支援プログラム参加者の有志らでミッションを組んでシリコンバレーを訪ねます。現地では、安倍首相が提唱したシリコンバレーと日本を結ぶ「架け橋プロジェクト」を開催しており、日米ベンチャーキャピタルカンファレンスなどに参加します。シリコンバレーでの刺激や出会いなども今後の事業構想に生かしていきたいですね。

起業家とIPO企業の輩出で商機あふれる九州・福岡へ



株式会社アイ・ビー・ビー 代表取締役

廣田 稔 氏

1963年生。福岡市出身。福岡大学法学部卒。証券会社勤務を経て、1994年に父親の経営する不動産会社である廣田商事（株）に入社。1999年代表取締役就任。2003年度（社）福岡青年会議所理事長を務めた。現在、NPOアジア太平洋子ども会議・イン福岡理事、一般社団法人九州ニュービジネス協議会 理事を務める。



株式会社アイ・ビー・ビー
福岡市中央区天神 2-3-36
ibb fukuoka ビル 501
http://www.ibb-fukuoka.com
tel.092-737-6360